



ルーテル学院だより

No.141
2019.12.1

http://www.luther.ac.jp/
発行 ルーテル学院大学・日本ルーテル神学校
〒181-0015
東京都三鷹市大沢 3-10-20
TEL:0422-31-4611
FAX:0422-33-6405

発行人 市川 一宏

授業探訪

「いのち学序説」



教授 神学校長 石居 基夫
(専門分野 神学・キリスト教死生学)

今回は「いのち学序説」についてご紹介いたします。

Q 授業では何を学ぶことができますか？

A 「いのち学序説」では、広く人間の「いのち」に関わることを学びます。特に、キリスト教的人間理解を基礎として、現代社会における人間のいのちや尊厳性を守る倫理的課題を考えていくための基礎になることについて学んでいます。

Q 「いのち」に関わるということ、具体的にどのようなことになりそうですか？

A 例えば、体外受精や代理母の問題、出生前診断と人工中絶、あるいは延命や脳死など生命倫理に関わる問題があります。また、環境破壊がもたらす深刻な生態系への影響など環境倫理に関わる問題であったり、ハラスメントや性的少数者の人権のこと、死刑とか自死の問題などにも触れてきます。

Q かなり広範囲な問題を取り上げられるんですね。

A 入門的な授業ですから、講義で全ての問題について話すという事はしていません。現代世界にいのちに関わるどんな問題があるのかということ



紹介し、そうした問題が自分自身近な問題であると知ってほしいと思っと思っています。そして、こういう問題にぶつかつた時にどう考えるのかその考える力をつけてもらえればと思っっています。

Q 考える力とはどういう意味ですか。

A もちろん、問題についての基礎的な知識が必要です。その上で、大事にしたことは、自分の考えたことを言葉を使って表現することです。自分が何を感じ、考えたのか、何を判断しているのか。思ったり、感じたりしていることをどういう言葉で言い表すか。そのことが一番大事なこと。逆に言えば、一つの事柄は、どういう言葉で表現されているかによって、見方や考え方の違いが表されるわけです。表されている言葉の中に、どんなことが考えられているのかということを確認かめる。そして、自分自身がどう言葉にしていくのか。その取り組みで、考える力をつけていきたいのです。

Q この授業の独特な学びとなるものはありますか。

A この授業が一番大切にしているのは、「キリスト教的人間理解」ということを基礎にしていこうと。こうしたいのちの問題を考えるときは、人間について様々な視点を持つて包括的に理解していくことが必要です。生活



の問題なら福祉的視点、心の問題ならば臨床心理やカウンセリングの手法が必要でしょう。さらに、私たちが人生を問うとき、例えば死に向かい合うような時に、実存的な恐れとか不安、生きる意味や不条理への問い、罪意識などが深く課題になるのです。いわば、人間の魂の問題に触れることの重みを観るということ、スピリチュアルな視点があることを学んで欲しいのです。

Q 授業は、講義だけで進みますか。

A 講義は、基礎的な知識を伝えていきますが、クラス内のディスカッション、自分で考えて言葉にしていくことをお願いしています。そのために、クラス内で4、5名のグループを形成してもらって、それぞれ何かテーマを決めて学び、それぞれに授業外でも学んで研究発表してもらっています。最初にあげたような色々な課題を自分たちで調べ、それをまとめる作業です。そういう取り組みを通じて、学びを深め、自分の考えをしっかりと伝える言葉を身につけてもらいたいと考えています。

愛祭 「総思総愛」

臨床心理コース2年 水野 亘平

私たち第41回愛祭実行委員会は「総思総愛 ～おもいあい～」をテーマに3月から着々と準備を進めてまいりました。

今年の愛祭は、当初は初日雨予報でありましたが、幸いなことに両日も天気と気温に恵まれた素晴らしい2日間となりました。

スタンプラリーや子ども縁日、各サークル団体による企画や屋台出店、デフVRなど、数多くの企画団体の出店により、大人から子どもまで多くの方々に楽しんでいただくことができました。

「おもいあい」

私たち実行委員会もスーパやバザー、ステージ企画など、全体の運営を精一杯務めさせていただきました。今年の愛祭が皆様の心に素敵な思い出を残すことができたのなら幸いです。

来年度の愛祭をより一層楽しんでいただけるよう尽力する所存です。最後になりましたが、今年度も関係者各位によるご理解ご協力のおかげで愛祭を開催できましたことを、この場を借りて幾重にも感謝申し上げます。来年のご来場を心待ちにしております。

行事予定 12月～3月

- 12月4日(水) 定例学生総会
- 12月7日(土) 自己推薦・教会枠推薦入試
- 12月11日(水) キャンパスクリスマス礼拝
- 12月13日(金) 冬フェス
- 12月14日(土) オープンキャンパス
- 12月14日(土) 大学院オープンセミナー(社会福祉学専攻・臨床心理学専攻)
- 12月23日(月) 通常授業終了
- 1月6日(月) 授業再開
- 1月21日(火) 通常授業終了
- 1月22日(水) 1月28日(火) 後期試験期間
- 聖歌隊・ハンドベル ジョイントコンサート
- 3月13日(金) 卒業式

保護者、社会人、編入生のためのオープンキャンパスを開催しました。

11月3日(日)に保護者の方や社会人・編入学希望者向けに、資格取得につながる実習教育やキャリア支援をテーマに実施しました。

本学では実習やインターンシップを社会で通用する力をつける重要な学びととらえ、実習前から実習後まで継続的な指導を行っています。それらを体験した学生の報告もさせていただきました。アンケートでは、「在学生の話が聞けて参考になった」「学校生活の様子がよく分かった」などのご感想をいただきました。

同日開催していた学園祭での、在学生の実習展示報告も見学していただきました。在生がどのように実習を経験し学んできたかの話を聞き、展示報告も見学していただくことで、参加者の方にも入学してからのイメージがつかえました幸いです。

秋の高校生のための体験講座

専任講師 浅野貴博

9月16日(月・祝)に「秋の高校生のための体験講座」が開催されました。

残暑の中、約10名の参加者がありました。「人を支援するしごとで大切なこと」をテーマに、講義や体験学習等を通して「人を支援する」という共通の関心や目標を持つ参加者同士で学びを深めることができました。私が担当した午前中のプログラムでは、「子ども

の貧困」に関する新聞記事を用いたグループワークを通して、自分の考えを言葉にして相手に伝える、そして相手の考えを理解する、さらにそれに対して自分の意見を返すことなどの難しさと楽しさを体験してもらいました。江口再起教授が担当した午後のプ



ログラムでは、本学の由来である「ルター」を通して、人と人との関係の広がりや深まりについて考えてもらう時間を持ちました。

また、希望者はチャペルでの礼拝を体験しました。さらにランチ交流では、在生とも交流し、参加した高校生は授業やサークル、アルバイトのことなど、実際の大学生生活についても熱心に聞いていました。

(参加者の感想)

- ・ 考えの幅が広がった。・ 子ども
 - の貧困について知ることができた。
 - ・ 緊張したけれど自分の意見を言うことができた。・ 人の考えを聞くこと
 - によって新しい考え、まとめ方を学んだ。・ 視野が広がった。・ 普段
 - の授業の雰囲気がかめた。
- 次回「春の高校生のための体験講座」は、2020年3月20日(金)です。

日本ーリトアニア 二国間セミナー開催

教授 山口 麻衣

ルーテル学院の創立110周年記念事業の一環として、日本の日本学術振興会(JSPS)とリトアニアのリトアニア学術会議(LRC)との助成を受けた二国間交流事業である「日本ーリトアニア二国間セミナー」が2019年9月28日にルーテル学院大学で開催されました。

本セミナーのテーマは「社会的ケアとテクノロジー..日本・リトアニアのソーシャルワーク専門職の未来を探る」であり、福祉とテクノロジーについて、文化、人口、経済状況、福祉領域でのテクノロジーの普及状況が異なる両国の状況を踏まえて比較しながら議論し、



アシスティブ・テクノロジーやICTなどの技術革新が急速に進むなかで、テクノロジーがソーシャルワーク・福祉の実践、教育、研究

領域にどのような変化をもたらすのかについて議論することを目的としました。リトアニアからは、ビリニユス大社会学部福祉学部の8名の研究者(うち3名の大学院生、研究代表者: J. Cibulka Smirskiene)を招聘し、6つの報告が発表されました。日本からはルーテル学院大学を中心とした12名の研究者(うち3名の大学院生、研究代表者: 山口麻衣)が5つの報告をし、多くの福祉実践者や大学院生がセミナーに参加しました。セミナーの後には和やかなレセプションも開催され、国際交流の場となりました。

両国の文化や制度は異なりますが、テクノロジーをソーシャルワークや福祉実践にどのように活用したらよいか、倫理的ジレンマも含めたテクノロジー利用の問題点の整理やテクノロジーを理解するための学びの必要性など、両国共通の今後に向けた課題があることも話し合われました。今回の日本ーリトアニア二国間セミナーが



福祉の実践者や研究者が福祉とテクノロジーの関連について考えるきっかけとなり、両国の福祉実践や教育の改善につながることを期待しています。



インターンシップ体験

子ども支援コース3年 田口 天

本学は全てのコースの学生を対象に「事前教育と就業体験」が一体となった「インターンシップ」という科目を開講しています。

私は就職するなら絶対福祉職だ、ということを決めています。ルーテル学院大学には「インターンシップゼミ」という授業があり、本来自主的に行うインターンシップに授業で行くことができます。合計5日間行くと単位を取得できます。私は老人保健施設と

少年院と母子生活支援施設の3つの施設に行きました。少年院でのインターンシップは法務省が主催する3日間のプログラムでした。法務教官は24時間教育の場であることを意識しており、職員は少年の更生に向き合い、少年の未来のために考えて日々奮闘していました。これは私にとって貴重な学びとなる経験でした。

ルーテル諸学校 研修会報告

教授 田副 真美

2019年8月5日〜7日に第36回ルーテル諸学校研修会が開催されました。5日の小副川幸孝先生による講演「ルーテルであることの意味」では、7日の分団発表の際にさらに講演内容の補足をしてくださり、ルーテルにおける教育の意味について理解を深めることができました。6日は、「思春期から青年期のころからだ」というテーマで話し、その後の分団討議で、先生方から現場の子ども達の様子を伺うだけでなく、教員のメンタルヘルスの問題についての意見交換ができました。7日は、高大連携について、九州ルーテル学院大学の岡本真理事務長と本学の高山由美子先生が、それぞれの大学の特色を活かした入試改革や学生への取り組みについて発表されました。

「ルーテル諸学校」って？

日本福音ルーテル教会と日本ルーテル教団とが関係する5つの学校法人、九州学院(中・高)、九州ルーテル学院(中・高・大学)、聖望学園(中・高)、浦和ルーテル学院(小・中・高)そして、ルーテル学院(大学・神学校)、これに神戸ルーテル神学校を加えたルーテル諸学校の連携・協力が作られて、過去40年以上に渡り、交わりと研修とを重ねてきました。

これを「ルーテル諸学校」と言い、現在では8月に「ミッションスクールで働く誇りと感謝と喜び」をテーマに教職員研修を行い、また11月末には各法人の代表者会、また教会と連携したキャンパス・ミッションに関する研修を行っています。

今年度、ルーテル学院大学はアメリカにあるルーテルコンコルディア大学ネブラスカ校と姉妹協定を結びました。コンコルディア大学は全米に10ヶ所のキャンパスがあるルーテル教団系の総合大学です。

留学体験談

齋藤 麗 (写真左)
臨床心理コース2年
コンコルディア大学ネブラスカ校にて Intensive English Program (16週間の英語集中プログラム) に在学中



まず理解していないから話せるようにはならない、ということですが、ただこの英語を学ぶというのとは違う異文化を学ぶということも含まれています。私がネ

上がったたり、流暢にネイティブスピーカーと話せるようにはならない、ということですが、ただこの英語を学ぶというのとは違う異文化を学ぶということも含まれています。私がネ

入試日程

2020年

- 1月25日(出) 一般入試S日程
- 1月31日(金) 一般入試A日程
社会人入試・編入学試験・留學生入試Ⅱ期
- 2月5日(水) 一般入試B日程
- 2月19日(水) 一般入試後期日程
- 3月7日(出) 3月入試
社会人入試・編入学試験Ⅲ期

センター試験利用入試出願期間

- I期 12月16日(月)〜2020年1月22日(水)
- II期 2020年2月3日(月)〜2月14日(金)
- III期 2020年2月17日(月)〜2月28日(金)

詳細は入学試験要項をご覧ください。
(入試に関するお問い合わせ)
入試事務局 ☎0422-314611 (代表)
(大学案内入試要項等資料請求)
企画広報センター ☎0422-322949

ルーテル学院大学クリスマス オープンキャンパス

12.14(土) 予約不要

12:30	受付開始
13:00	大学紹介
13:20	サークルによるクリスマスコンサート
14:30	模擬講義 「お祭りで終わらせないボランティア活動」 ▶市川一宏 学長
15:30	入試説明会

お問い合わせ先
企画広報センター
メール koho@luther.ac.jp
電話 0422-32-2949

※個別相談会、在学生相談コーナーは随時行っています。



にはここならではの体験がたくさんあります。それがどんな経験であれ必ずポジティブな結果を生むであろうことは間違いなくと確信しています。

ブラスカに滞在して感じたこと、それは圧倒的な文化の違いです。もしかしたら州や地域性もあるのかもしれないが、この学校の学生は多人数種で多様、英語の発音やスラング、友人との距離感、生活習慣、どれも人によって全く異なるので驚かされるのがたくさんあります。また学生は基本的にとてもフレンドリーで、留学当初、ガチガチに緊張していた私にたくさんの人達が話しかけてくれました。2か月経った今でも少数ではありませんが車で連れ出してくれたり、食堂で一緒にご飯を食べてくれたりする友人がいます。授業以外の時間には、教会の牧師とバイブルスタディをしたり、音楽療法の授業を見学したりと好きなように空いた時間を過ごしています。コンコルディア大学ネブラスカ校